

中学校第2学年 国語科学習指導案

日時 2020年 12月 6日 第3校時
学級 プリンストン日本語学校補習校部
第2学年（男子2名 女子1名）
GoogleMeet オンライン授業
授業者 笠原 朋子

1. 単元名 いにしえの心を訪ねる 『漢詩の風景』（国語2. 光村図書）

2. 単元について

(1)生徒の実態

今年度のプリンストン日本語学校は、新型コロナウイルスへの対応のため4月は休校となり、5月6月8月に9回の「学習サポート」（家庭学習指導）を行った。9月以降は、家庭学習2時間とオンライン授業2時間（同時双方向型授業）を半々に組み合わせた「学習サポート+（プラス）」に、学習体制が切り替わっている。

中学2年生は、小3時に日本からの渡米した生徒1名、アメリカで生まれ育った生徒2名の計3名が在籍。日本語の力に違いはあるが、学習意欲は高くおおむね意欲的に取り組んでいる。教師からの発問に対し、自分の考えを自分の言葉で伝えることができるが、生徒同士の話し合いの場では、発言が消極的になってしまう。

古典について事前アンケートを取ったところ、1年時の古文や漢文についての学習記憶は薄れており、古文を読むことや暗唱することに苦手意識を持っている返答が多かった。同時に、現代と違う言葉や由来を知ること、中国の歴史に触れることに興味・関心を寄せていることが分かった。アメリカでの日常生活の中で、古文や漢文に触れる機会が大変乏しい生徒たちではあるが、古典内容を理解し、現代にも通じるものがあることに気づくことによって、実生活をより彩り豊かにし、興味・関心を深めていけるよう働きかけたい。

(2)本単元のねらい

一年生で故事成語を学んだ生徒は、この教材で本格的な漢詩に出会う。小学校で漢詩を音読した経験を持っている生徒もいるが、本格的な漢詩学習としては初めての場となる。

本教材では、盛唐（8世紀初頭）を代表する詩人である李白・杜甫・孟浩然の作品が取り上げられている。彼らの作品は現代でも愛され、いずれもリズムのよい詩型の中に美しい情景描写と詩人の思いが表現されており、詳しく読み取っていくうちに、その発想や表現の豊かさ、優れた構成に気づかされる。本教材ではさらに、漢詩の決まりとして絶句や律詩、押韻や対句などの表現の特徴を学ぶ。教科書は、書き下し文と原文の後ろに解説を配し、初めて漢詩に触れる学習者に、段階的に理解できるよう配慮がなされている。

指導に当たり、初めて触れる漢詩に抵抗感を覚えることがないように下記の点を工夫していきたい。

- ・日本やアメリカの風景や風物とは異なる要素を持つ漢詩の世界が体感できるよう、中国の長大な川や広い平野、建築物などを写真や映像などを活用する。
- ・漢文の決まりや漢詩の構成について、オンライン授業の特性を生かし、視覚的に明確な説明をする。
- ・書き下し文と解説から、三つの漢詩の内容や情景、心情、表現の特徴、詩人の生き方や時代的特徴を大まかに捉えさせる。
- ・漢詩の訓読を繰り返すことで、漢詩の美しさやリズムをとらえ、自然の巧みな描写に気をつけながら作者の感動や悲しみといった心情を味合わせ、漢文に親しみを持たせる。

学習活動全体を通して、漢詩の中に現代社会にも通じるものを感じ取り、自己の生き方を豊かなものにしていくきっかけを得ると同時に、漢文を読むことができる自信を育てていきたい。

3. 単元の目標

- 漢詩の味わい方を理解し、漢詩への興味・関心を深めさせ、学習の意欲をもたせる。【関心・意欲・態度】
- 漢詩の内容や表現のしかた、表現の意図などについて、根拠を明確にして自分の考えなどをまとめさせる。【読む】
- 漢詩についての基礎的な知識を学習し、漢詩特有の言葉遣いやリズムを生かして読み味わわせる。【伝国】
- 漢詩を読み、詩に表現された情景や古人の心情について考えさせる。【伝国】

4. 単元の評価基準

「関心・意欲・態度」… 漢詩特有の言葉遣いやリズムに興味を持ち、進んで漢詩を読もうとしている。

「読む」… 漢詩の内容や表現について、根拠を明確にして自分の感想をまとめている。

「伝国」… 漢詩特有の言葉やリズムに留意しながら朗読している。

「伝国」… 漢詩に描かれている情景や心情について想像している。

5. 単元計画 (5時間 本時5/5)

次限	主な活動内容	指導上の留意点	評価基準
1 11/22	・学習のねらいをとらえ、漢詩に興味を持つ。 ・映像や範読から、漢詩の雰囲気をつかむ。 ・漢詩の形式や種類について知る。	・日常生活の中で、漢文や漢詩と関わることを見つけさせる。 ・漢詩の歴史的背景をイメージさせる。 ・漢詩の形式や種類を理解させる。	・興味・関心をもって、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ・漢詩の形式、構成法について理解している。
2 11/22	・「春暁」の構成を知り、描かれている情景と起承転結を対応させながらとらえる。	・「春暁」は五言絶句であることを押さえる。 ・解説文から内容を読み取り、起承転結の構成と主題に気づかせる。	・起承転結の構成と対応させながら、解説文を頼りに内容を読み取る。 ・漢詩に描かれた情景や、孟浩然の心情を想像している。
3 11/29	・「絶句」について、前半の情景の色彩表現と後半の心理表現をとらえる。	・「絶句」は五言絶句であることを押さえる。 ・色の表現を通して、起句と承句が対句になっていることに気づかせる。	・対句や色に着目しながら、解説文を頼りに内容を読み取る。 ・漢詩に描かれた情景や、杜甫の心情を想像している。
4 11/29	・「黄鶴楼にて…」に描かれている情景をとらえ、心情を想像する。	・文字数に着目させ、「黄鶴楼にて…」は七言絶句であることに気づかせる。 ・親友と別離という内容を、どのように表現しているのか考えさせる。	・自然や史跡を意識しながら、解説文を頼りに内容を読み取る。 ・漢詩に描かれた背景や、李白の心情を想像している。
5 12/6 本時	・三編の漢詩の訓読を通し、漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深め、今と昔に共通する人の思いに気づく。	・白文に返り点や送り仮名を付け、訓読文にさせる。 ・漢詩のリズムを味わいながら、訓読に取り組ませる。 ・自分の体験を想起させる。	・訓読の基本的な知識を確認し、朗読を楽しむ。 ・漢詩に描かれた情景や作者の心情を想像しながら、自分の思いと比較しようとしている。

6. 学習指導の展開（5/5 時間目）

- (1)本時の目標
 - ・ 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう
- (2)評価基準
 - ・ 訓読の基本的な知識を確認し、朗読を楽しむ。
 - ・ 漢詩に描かれた情景や作者の心情を想像しながら、自分の思いと比較しようとしている。

(3)学習の展開（5/5）

過程	学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入 5分	1. 三編の漢詩を想起する。 2. 本時の学習課題をつかむ。		
本時のめあて 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう			
展開 35分	3. 三編の漢詩の白文に送り点や送り仮名を付け、訓読文を作る。 4. 訓読についての基本を確認しながら、訓読する。 5. 漢詩特有の言葉遣いやリズムに興味を持ち、訓読を楽しむ。	・ 白文に返り点や送り仮名を付け、訓読文にさせる。 ・ 読み順に迷うときは、番号を付けさせる。 ・ 漢詩のリズムを味わいながら、訓読に取り組ませる。 ・ 特有の言葉遣いやリズムに留意して、朗読を楽しめるよう支援する。	・ 白文に訓点を付け、訓読文を作ることができる。 ・ 訓読について理解し、訓読することができる。 ・ 繰り返し訓読しようと努めている。
まとめ 5分	6. 漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深め、今と昔に共通する人の思いに気づく。	・ 自分の体験を想起させ、漢詩の世界に通じるものがあることに気づかせる。 ・ 共感を抱く漢詩を選ばせることで、自分の経験を想起させる。	・ 漢詩に描かれた情景や作者の心情を想像しながら、自分の思いと比較しようとしている。

(4)ワークシート

5漢詩の風景

【目標】・ 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう。

名前

1

① 三編の漢詩の白文に、返り点や送り仮名を付け、訓読文を作ろう。
② 訓点に従って、正確に訓読しよう。
③ 漢詩特有の言葉遣いやリズムを意識して、繰り返し練習しよう。

2

三編の漢詩の中から一編を選び、自分の気持ちや価値観と重なる表現や句を抜き出し、その理由を書こう。

3

自分の体験と重ねながら、今も昔も、共通している思いを書き表そう。

春曉	孟浩然
春眠不觉晓	
处处闻啼鸟	
夜来风雨声	
花落知多少	

絶句	杜甫
江碧鸟逾白	
山青花欲然	
今春看又過	
何日是帰年	

黄鶴楼にて孟浩然の 広陵に之くを送る	李白
故人西辞黄鹤楼	
烟花三月下揚州	
孤帆遠影碧空尽	
唯見長江天際流	

好きな詩や句の表現

選んだ理由